

【ものづくり 人づくり 地域づくり】

”生活をたすけあう” 地域の協同として — 常総市水害・生活復旧支援 —

「生協のみなさん、 助けて頂いて本当にありがとう」

前略

常総生協の皆さん、水害時に助けて頂いて本当に感謝します。

道路の水が引き、通れるようになって避難先から初めて家を見に来たとき、これ程ひどい有様とは思ってもよらず自分の体力と合わせ、やるしかない自分の事は考えられず、常総生協の皆さんに励ましの言葉といたわり、思いやりに助けられ、涙の出るほどの御力に助けられ、また岩手県の方々から飲料水を頂きありがとうございます。

生協さんの方々から家の事も手伝って頂き、昼食にはおにぎりやゆで卵を作って来て下さり、食に満たされ心が豊かになり、余ったおにぎりも下さいましたので、近所の方や避難先に帰るとき友達に会い、昼食も食べてないと言うのでシソジュースとおにぎりをあげた時喜んでほおぼって下さいました。今会ったときや電話であの時はおいしかったと言ってくれます。

その後生協さんが炊き出しをして下さりいたれりつくせりで、スーパーに買い物に行くに行けず時間がない中で、感謝の気持ちでいっぱいです。生協さんの食材は安心して食することが出来なによりです。

今迄の生活の様にはいきませんが3～4ヶ月すればなんとか生活のメドが着くと思ひ、あとひとふんばりしなくてはと思っています。

また少し気が休まると今迄の疲れが出て、そんな事言ってる場合ではない事は承知の上ですが、常総生協さん達の明るい笑顔に支えられ、何の恩返しも出来ず恐縮しています。

もっともっと書き足りない事が沢山ありますが、息子達共々一言御礼迄とさせていただきます。まだまだ御世話をかけますが、よろしくお願い致します。

常総市相野谷町 最上由美子



道に座り込んで頭を抱える最上さん。最初はみんなで心配しました。



みんなといっしょに家の片付け。

避難所縮小で、家の2階での生活へ。1階ではまだ食事つくれない。お風呂もまだ。



だいぶ元気になってくれました。みんなといっしょにサンマを。

○組合員さんからの秋冬衣類・下着の支援ありがとうございました。たいへん喜ばれています。たくさんの衣類が集まりましたので、一旦締めさせていただきます。

【これからの復旧支援活動】

①10月中、週1回「現地炊き出し」「消毒隊＋生活復旧お手伝い」

①**現地炊き出し隊**（毎週水曜日） 関東鉄道「北水海道駅」前広場で炊き出し

10/14（水）、10/21（水）、10/28（水）

8：30 生協本部調理室集合、炊き出し仕込み 11：15生協発 12：00～13：00「北水海道駅」前広場にて炊き出し
14：00 生協へ戻り、片付け 15：00終了 ※炊き出し仕込み準備だけでもOKです。

②**消毒・生活復旧応援隊**（毎週土曜日）

10/10（土）、10/17（土）、10/24（土） 8：30生協本部集合 9時すぎ現地入り 14：00終了

②「生活復旧支援基金」1口 500円 注文書 OCR No. 475 継続！

③（新規）現地生活復旧「聞き取り調査」隊

被災地域のみなさんの様子や困り事などを聞き取り、みんなで応援できること、行政に要請することなどを整理・振り分けをして効果的な生活復旧の支援ができるようにします。水害対応支援 NPO 連絡会議と連携をとりながらすすめますので、参加可能な方、生協にご連絡下さい。日程等の連絡をとりあって参加してゆきます。

地域の NPO と連携して、被災者生活再建の聞き取りと支え合い活動へ

○職員から

常総市の被災地支援を続けている職員から「被災された方は、”話を聞いてくれる人がいることだけでうれしい。元気にもなる”と言うんです」「少しでも自分が役に立てるのなら、今の状況や困っていることを聞いて歩いていいですか？」と。

○炊き出し現場で

そんな話題が出ていたとき、炊き出しの現場で県内外からの水害支援 NPO のネットワークをつくって支援活動をされてきたコモンズの代表横田さんとお会いすることができました。

「茨城 NPO センター・コモンズ」は、地域の人がつながり共に行動する社会をめざして、これまで市民による NPO 設立の支援をされてきて、また水海道をひとつの拠点に活動をされていましたが、自身が被災すると同時に災害直後から県内外の水害支援 NPO 59 団体の連絡会議をつくり、毎日情報共有の場をつくって支援活動の連携をされてきていました。

特に NPO 連絡会議では一軒一軒の声かけを行いながら、必要な支援は何かを共有して市民の連帯・連携をはかっていました。

前後して関東子ども健康調査支援基金でいっしょのひたちなか市の仲間からもコモン

ズと常総生協が地域で連携してとお話しを頂いていたばかりでした。

○「今は孤独や喪失感との闘い」

コモンズ代表横田さんは次のように。

「この3週間、最初は水との戦い、次がゴミとの戦いでした。今は孤独や喪失感との戦いです。みな被災地以外に行ったり、職場に出たとき、被災や被害に関する感覚の違いにすごくショックを受け、取り残されている、忘れられていると感じています。忘れていない、いっしょに今後のことを考えている、ということが伝わると、みな明日に向かう勇気が出てくると思います。災害から1ヶ月をすぎたら何か皆が元気になれることをやっていきたいと思います。」

「行政や制度は重要だし、なんとかしてほしいですが、やはり市民社会をつくらないと生活や幸せを守れません。今20年前に阪神淡路で生まれたような様々な活動が、規模は小さいかもしれませんが、この常総市で生まれつつあるし、今なら市民が協力した活動、災害弱者を生まない行政や助け合いの仕組みをつくれる。今なら国籍の壁を越えたつながりがつくれる。そう信じて活動していこうと思います。」

わたしたち常総生協も地域に開かれた生協として地域の市民社会づくりに協力しあって

共に歩めればと思います。

○「在宅避難者」

茨城コモンズさんを中心にしたNPO連絡会議では一軒一軒声をかけてゆく中で、特に「在宅避難者」「避難所での健康管理」への支援を訴えています。

1階がほぼ浸水（大規模半壊 1035 棟）、床上浸水（半壊 2801 棟）の家では、ほとんどが畳や床を剥がした状態で2階生活。お風呂も台所での料理も困難な状況。車を失い、火災保険も水害ではおられない。数百万円の住宅修復に 57 万円程度の公的支援ではとても足りない・・・。

避難所統合で市内の避難所は 5ヶ所に減り、町外れの避難所からは通勤通学が困難なため、復旧していない自宅に戻らざるを得ない。しかし家に戻っても食事もつくりえない生活をしている「実質的な避難生活者（在宅避難者）」がたくさんいる。

市内の避難所では3週間たってもおにぎりだけ。夜間見守る保健師や看護師も不足。

「迷惑をかけたくない」と床下の泥かきがおおらず、カビが大量発生している被災住宅に戻っている・・・。避難所を出た被災者・在宅避難者は10/5より食事と支援物資の支給が停止された・・・。

現状の把握と災害救助法でできることの検討がとても不十分と指摘しています。

○「街中サロン」づくり

とりあえず通りや公園のゴミの山はなくなってきましたが、家の片付けをしている人はみな疲れています。

コモンズさんが中心になってNPO連絡会議では今後「避難しつつ片付けをしている人が地域で支えあえる活動」のひとつとして「街中サロン」を計画しているとのこと。

- ・住宅地での炊き出し
- ・足湯、マッサージ
- ・相談会
- ・カーシェアリング
- ・多言語の情報誌発行

○行政への3つの要望

また、NPO連絡会議は10/7、茨城県知事・常総市長に「災害者支援策の3つの要望」書を提出しています。

- 1) 被災者間格差を生まない対応策
- 2) 最低限の健康確保に対する対応策
- 3) 人口流出をさけるための対応策

今後生協もNPOコモンズさんと連携をとりながら、組合みんなで協力できることを呼びかけてゆきたいと思います。

【被災産地応援】①「白米」か「玄米」のみ ②包材水没のため「紙袋」でお届け ③色選なし

めぐみちゃん5kg

めぐみちゃん5kg

めぐみちゃん2kg

431 白米 2,646 円税込

432 玄米 2,538 円税込

434 白米 1,075 円税込

脱原発とくらし見直し委員会より「つくば市食品放射能検査」の調査協力員募集

生協の食材は放射能検査をカタログで公開していますが、地域の直売所で販売されたり、市民が自治体に持ち込んで測定されたものの放射能データはなかなか目にできません。

脱原発とくらし見直し委員会では、各自治体やJAでの放射能検査状況を調査しまとめた形で組合員に情報提供しようと調査をすすめています。

その中で、「つくば市JAやたべ」の公表デー

タのエクセルファイルへの入力のコラボを募集します。

つくば市のホームページからデータをコピーしてエクセルに入力する作業です（今年5月以降のデータ入力）。

つくば市在住の方で、地元の状況を把握しながらデータ入力にご協力下さい。

お手伝い可能な方は生協本部までご連絡下さい。